

# 発音に誤りのあるK子の指導例

## —主として「サ行」が「チャ行」や「シャ行」になる—

足利市立山辺小学校  
教諭 山越敏雄

### I はじめに

山辺小学校「ことばの教室」に勤務してから、早くも1年が過ぎようとしている。普通学級の経験は多少あっても、指導内容・指導方法等の異なる言語障害児学級（ことばの教室）での指導については、文献研究から始めなければならなかった。

本児は、夏休み前に行われた、各校訪問の言語障害児選別検査において紹介された、発音に誤りのある児童のうちのひとりである。ことばの教室に通い始めた、9月から12月までの指導記録をふり振り返りながら、サ行が、それに近く改善されるまでの経過を紹介してみたい。（なお、本児は現在も指導中である。）

### II 本児—K子ちゃん—についての理解

S・K 女 昭和47年3月24日生

初回面接日 昭和53年7月8日（当時6才4ヵ月）

#### 1. 構音検査

構音能力を検査するには、いろいろな方法が考えられるが、（構音検査の方法については、参考文献1を参照）今回は、限られた時間の中でやらなければならないので、絵カードを示し、自然な発音（発語）能力を調べる、自発法を用いた。また、そのほかに、その誤りの発音に対する被刺激性や浮動性をも検査し、その場ですぐ評価する方法をとった。（なお、この検査は、山辺小学校ことばの教室のスタッフ3人で、分担して行ったものである。）

#### 2. 構音検査の結果

※表中の○印は正しく発音できる。

チェ／セはセの音がチェの音になる。

構音検査記録表			検査日 昭和53年7月8日		
	語 頭		語 中（語尾）		
F	フウセン		フウチェ／セン	オフロ	○
h	ハッパ	○		エホン	○
b	バナナ	○		カバン	○
P i	ピアノ	○		エンピツ	エンピチュ／ツ

f	ショウボウシャ		チョ/ショウボウチャ/シャ	デンシャ		デンチャ/シャ
Si	シカ		チ/シカ	ウシ		ウチ/シ
tʃ	チャワン	○		チョウチャ	○	
tʃi	チイサイ		チイチャ/サイ	イチゴ	○	
dz	ジュウス		ジュウチュ/ス	ドジョウ	○	
dzi	ジテンシャ	○	ジテンチャ/シャ	クジラ	○	
sw	スイカ		シュ/スイカ	イス		イチ/ス
saːse	サル		シャ/サル	フウセン		フウチャ/セン
ts	ツミキ		チュ/ツミキ	クツ		クチュ/ツ
dzw	ズボン		ジュ/ズボン	ネズミ		ネジュ/ズミ
dzo	ゾウ		ジョ/ゾウ			
dza	カザグルマ		カジャ/ザグルマ			
r	ライオン	○		マル	○	
ri	リンゴ	○		アリ	○	

### 3. 構音検査の記録から

構音検査についてまとめてみると、次のようなことがわかる。

サ→チャ・シャになる。      ザ→ジャになる。

シ→チになる。      ズ→ジュになる。

ス→チュ・シュになる。      ゾ→ジョになる。

セ→チェになる。      ツ→チュになる。

上記のまとめから考えてみると、サ音は、チャ音やシャ音に置き換えられる。また、ス音については、チュ音やシュ音に置き換えられる。しかし、シ音とセ音については、それぞれチ音・チェ音で固定している。そこで、正しい音に近づいている、サ音・ス音についてさらに詳しい検査をしてみた。(詳しい検査方法については、参考文献2を参照)

被刺激性検査	語音 (-)	※・被刺激性→正しい音の模倣ができるかできないか。
	構音 (-)	・浮動性→自由会話等で使用する誤りのある音の変
浮動性の検査	(-)	化の状態。
語音弁別検査	(+)	・語音弁別→正しい音と誤りの音を区別して聞きわ
聞いて書く検査	(+)	ける力。
耳の聞こえの検査	(+)	・(-)→悪い。または、できない。
		・(+)->良い。または、できる。

以上の結果から、サ音についての本児に対する問題点を総合的にまとめてみると、

- (1) 教師が話す、サ音を含むことばに対して、何とかして正しい音に近い音を出そうと努力しているが、今までの癖、あるいは、チャ音・シャ音の方が出しやすいのか、いつも、チャ音やシャ音になってしまう。

- (2) 会話でも歌でも単語でも、サ音は、いつもチャ音かシャ音になって発音される。
- (3) 教師が誤りの発音をすることに対しては、適確に聞きわけることができる。たとえば、教師が、「サンリンシャ」というと正しいといい、「チャンリンチャ」や「シャンリンチャ」や「チャンリンジャ」というと、それは誤りであると反応する。
- (4) 聞いて書くということは正しくできるので、正しい音がひずんで聞こえているということはないと考えられる。たとえば、教師が「サンリンシャ」というと、正しく「サンリンシャ」と書き、「チャンリンシャ」というと「チャンリンシャ」と書くからである。
- (5) 小さな声で質問しても、適切な答えが返ってくるし、また、小さな鈴の音や遠くのニワトリの鳴き声にも反応するので、聞こえに異常はないと思われる。

#### 4. 本児に対するその他の問題点

- (1) 母親からの主訴
  - ① 家では比較的良好に話すが、早口なので何を話しているのかわからない時がある。
  - ② 発音がおかしい。特にサ行がチャ行やシャ行になる。
  - ③ 友達や姉から、発音について時々からかわれることがあり、サ行が含まれることばについては、意識的にさけて話そうとしたりして、このごろだいぶ気にしはじめてきたようだ。
- (2) 教師との面接時の様子から
  - ① 発音はサ行に限らず、まだ、だいぶ幼児音の残っている会話をする。
  - ② 簡単に答えられそうな質問に対しても、すぐ母親に「何だっけ」と聞いたり「えーと」といったりして、母親に話させようとする態度をよくとる。
  - ③ なれないせいもあると思われるが、いろいろな事を本人から話しながらない面もある。
- (3) 母親の態度から
  - ① 本児が、「何だっけ」と聞いたりしても「あれだろうがね」などといって、何とか人前で話をさせようとしむける。
  - ② ちょっと姿勢がくずれたりすると、すぐ、ひざをつついて注意をしたりして、本児のしつけに対してきびしい面が見られる。
  - ③ 誤りの発音を何とか早く直そうとして、家中の人が気をつかい、誤りの発音に対して折にふれて注意をしていた。

#### 5. 本児の問題についての考察

- (1) 体の動きや動作、それに会話の内容、また、小さな話し声や音（鈴や遠くのニワトリの声）に対する反応からして、知恵遅れとか聴力についての心配等は、ないように思われる。
- (2) 特定の語音が正しく構音できないために、言葉そのもの聞き手の注意をひいてしまうような状態にあるので、まず、原因あるいは悪影響をもっている関係因子のうち、除きうるものができるだけ除き、改善できるもの（発音の誤りや人間関係）を最大限に改善することに努力をする。そのために、まず、発音の誤りがあっても、人前で平気で話せるような気持ちを育てる

とともに、家族には、本児との接し方を助言し、その要因を軽減ないし除去するよう心がけていきたい。(このことについての詳しいことは、参考文献3を参照)

### Ⅲ 発音の発達について

(1) 発音についていわれることはたくさんあるが、そのうちいくつかを抽出してみると、

- ① 徐々に年令をおって育っていく。
- ② いろいろな話(会話)や歌の中でおぼえていく。
- ③ 言語のかくとくの様子は、その子によって差がある。
- ④ いいやすいことば(幼児語)で、まずおぼえる。

などである。発音の発達について表にまとめてみると、下記のようになる。

年 令	発 音 の 発 達 の 基 準
1	パピプペポ・バビブベボ マミムメモ・ナニヌネノ
2	タテト・ダデドの音
3	カクケコ・ガグゲゴ・キ・キャ キュ キョ ギ・ギャ ギュ ギョ・ツ・ツャ シュ ショ
4	ジ・ジャ ジュ ジョ・チ・チャ チュ チョ ハフヘホ・ヒ・ヒャ ヒュ ヒョの音
5	サスセソ・ザズゼゾ
6	ラリルレロ・ツの音

※ さらに詳しい内容は、参考文献5を参照

これを、具体的に表わしてみると、

#### 1オごろ (両唇音・破裂音)

ブーブー・バイバイ  
ワンワン・ンマンマ等

◎パ行音・バ行音・マ行音・ワ行音をまず覚えて発音する。

その理由を考えてみると、

- ・ 子どもの能力にあった発音器官で発音できる。
- ・ 聞きとりやすい。
- ・ くり返しが、簡単にできる。
- ・ 親が語りかける言葉の中に、その音が多い。
- ・ 親の口もとを見て、比較的模倣しやすい音である。

などがあげられよう。それが、さらに年令が進んでくると、

2才～3才ごろ

(舌先上下)

タル・テンテイ

〔ヤダ・イタイ・トッテ〕  
〔ナイナイ 等〕

◎タ行音・ダ行音・ヤ行音・ナ行音

これは、このころの中心のおもちゃである。太鼓をたたいたりする動作と口の動きが非常ににているためともいわれている。このころになると、気持ち感情・ことばが一体となって出てくるようになる。

次には、

(舌奥(飲みこむ)のど(あけしめ))

〔カウ・コウエン〕  
〔ガッコウ 等〕

◎カ行音・ガ行音

やがて、息の使い方もうまくなり、また、舌先の動きも敏速になり、

4才～5才ごろ

(舌先の細かい動き)

チャル・チェンチェイ

◎チャ行音・ジャ行音・ハ行音・チ行音がうま  
く発音できるようになる。

さらに、息の使い方がより巧みになり、少ない息で大きく長い声が出せるようになる。

(歯茎音・摩擦音)

◎シ音

シャル・シェンシェイ

6才～

(歯音・摩擦音・歯茎音)

◎サ行音・ザ行音・ラ行音・ツ音が出せるよ  
うになり、構音ができ上がるといわれている。

サル・センセイ

しかし、これは、あくまでも標準であり、各個人により差があることは、いうまでもない。完全に構音ができ上がって、正しい発音ができるようになり、日常会話等で、じゅうぶん使いこなせるようになるまでには、10才ごろまでかかるといっている学者もいる。

#### IV 指導計画

##### 1. 指導目標

- (1) サ行音・ザ行音・ツ音の正しい発音を習得させる。
- (2) サ行音・ザ行音・ツ音が改善されなくても、その障害をもったままで生活していけるような心構えと態度を身につけさせる。

##### 2. 指導方針(ことばの教室として)

- (1) 正しい語音の聴覚的印象をしっかりと身につけさせるため、正しい音を正確に聞かせる。
- (2) サ行音とシャ行音(チャ行音)を聞きわける、音の弁別、確認等の耳の訓練を行う。
- (3) 正しい音の構音法を教え、できるようになったらそれを強化し、その音の習慣化を図る。
- (4) だれの前でもおくせず、子どもらしく進んで話そうとする気持ちを育てる。